

# 第20期考古学セミナー

—古代から近世の木簡と木製品—

講義 6

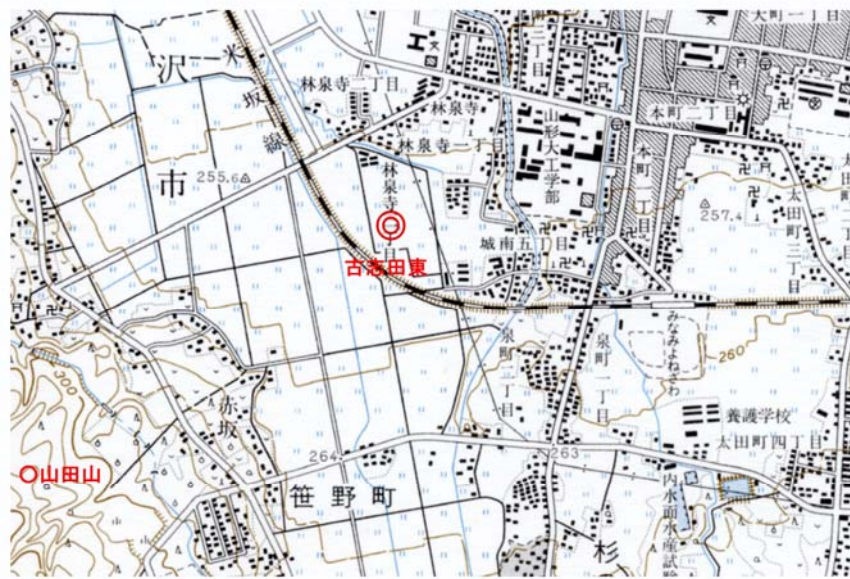
## 古志田東遺跡の木製品と文字資料

米沢市教育委員会 手塚 孝 氏

平成30年11月4日（日）

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

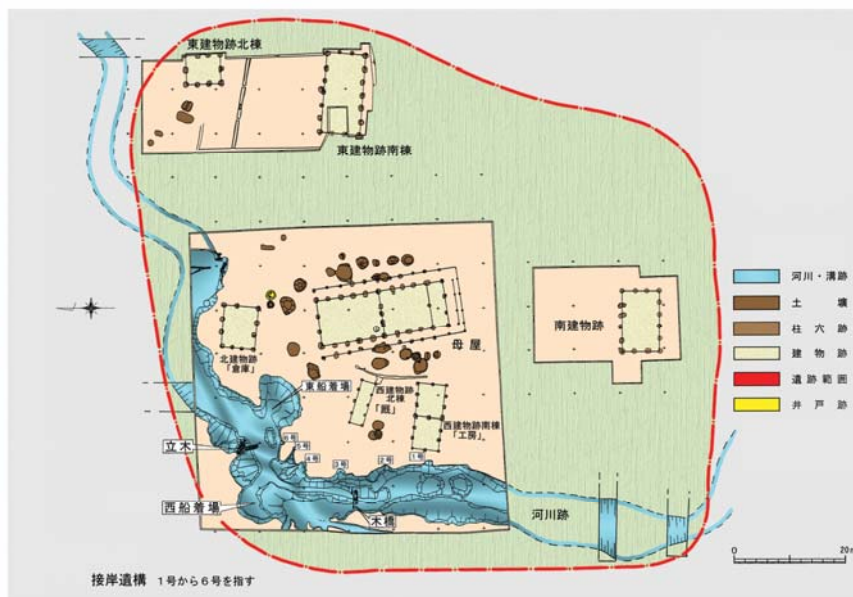




古志田東遺跡位置図



古志田東遺跡全景「空中写真」



古志田東遺跡遺構全体図

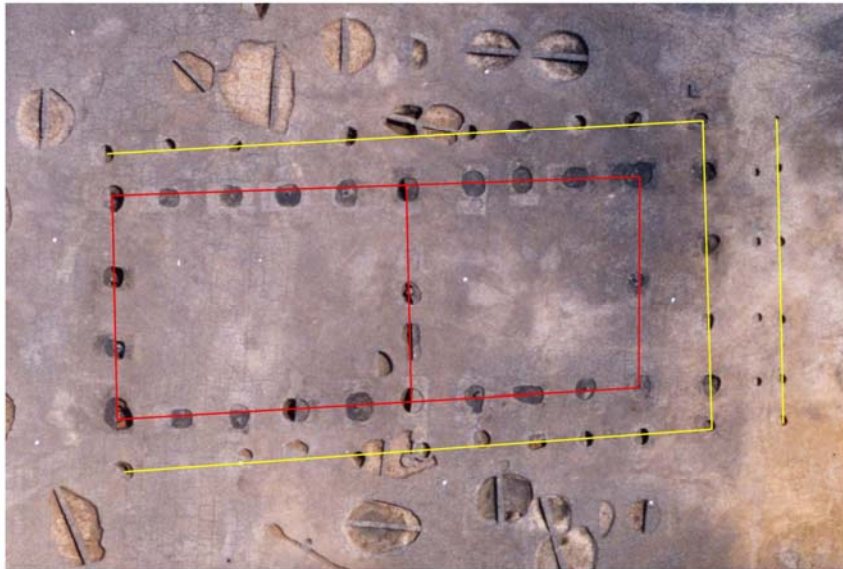
## 古志田東遺跡

- ◎平成11年に調査された遺跡で、三面庇を有する**3間×9間**の母屋を中心に掘立建物跡7棟で構成する豪族屋敷。木簡61点、木椀等700点以上を含む多量の木製品類、500点以上の墨書土器群、特殊な溶液を添付した赤焼土器など膨大な遺物が検出。
- ◎特に木簡の中には「**□船津運十人**」・「**□田人廿九人**」・「**□百五十八人**」・「**狄帯建一斛**」といった水田作業や船の荷降ろしの人員、米の銘柄が表示されてある。
- ◎遺跡の成立は、9世紀初頭から前半にあたり、10世紀の初頭頃まで遺跡が存続したと考えられる。  
遺跡では、木簡で示すように大規模な農業経営や運河を管理して交易を行うなど、周辺地域に絶大な影響を及ぼした人物であったと推測される。

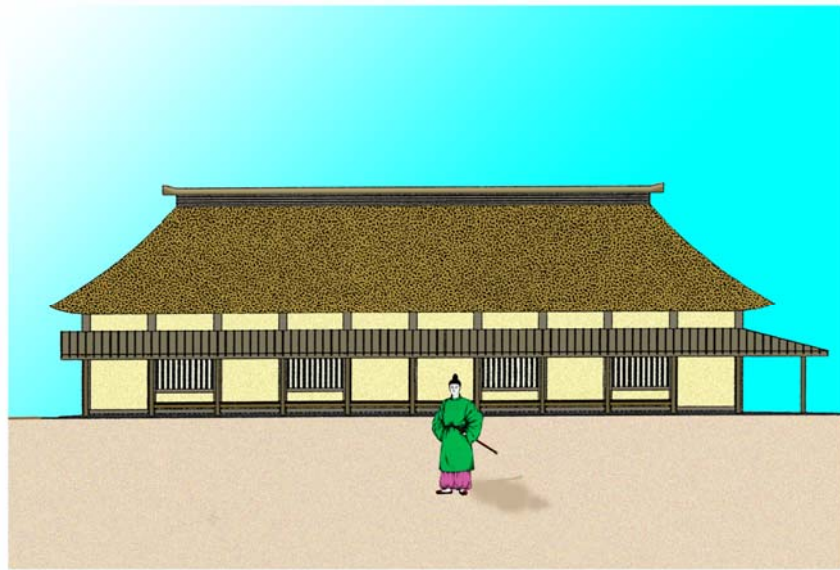


古志田東遺跡復元図

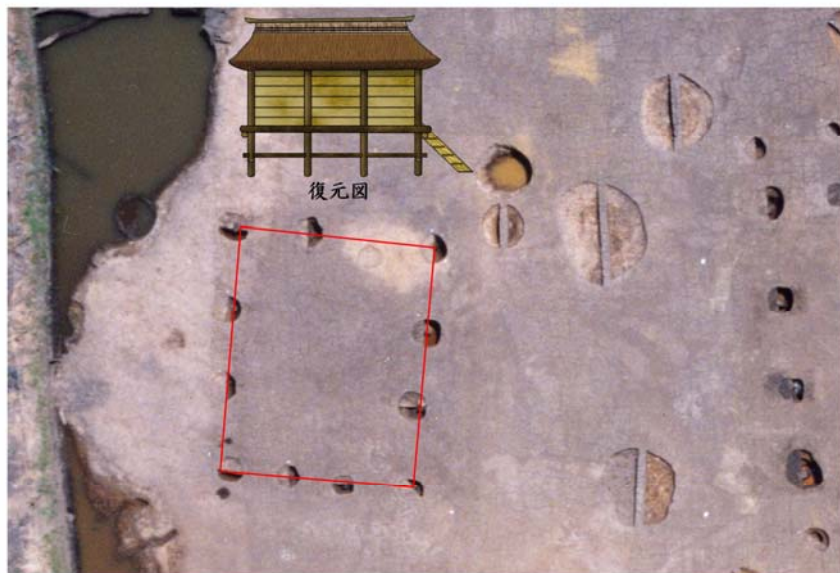
手塚・小林 2003



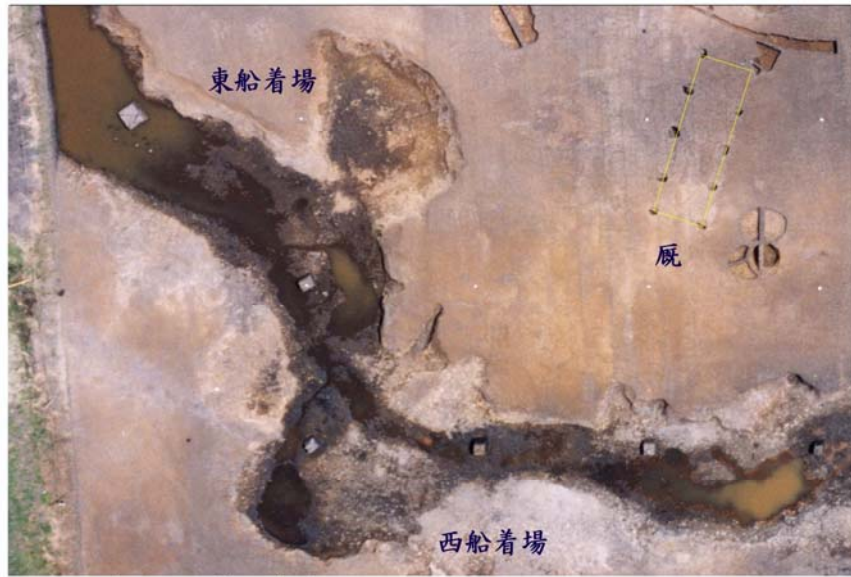
古志田東遺跡母屋全景



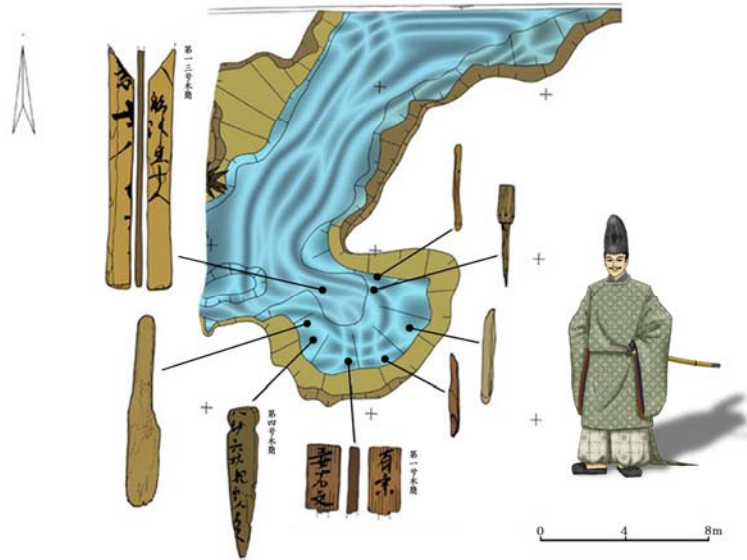
古志田東遺跡母屋復元図



古志田東遺跡倉庫全景



古志田東遺跡船着場全景



東船着場出土木製品分布図



古志田東遺跡出土須恵器



古志田東遺跡出土内黒土師器



古志田東遺跡出土赤焼土器「表面」



古志田東遺跡出土赤焼土器「表面」



古志田東遺跡出土赤焼土器「灯明皿」

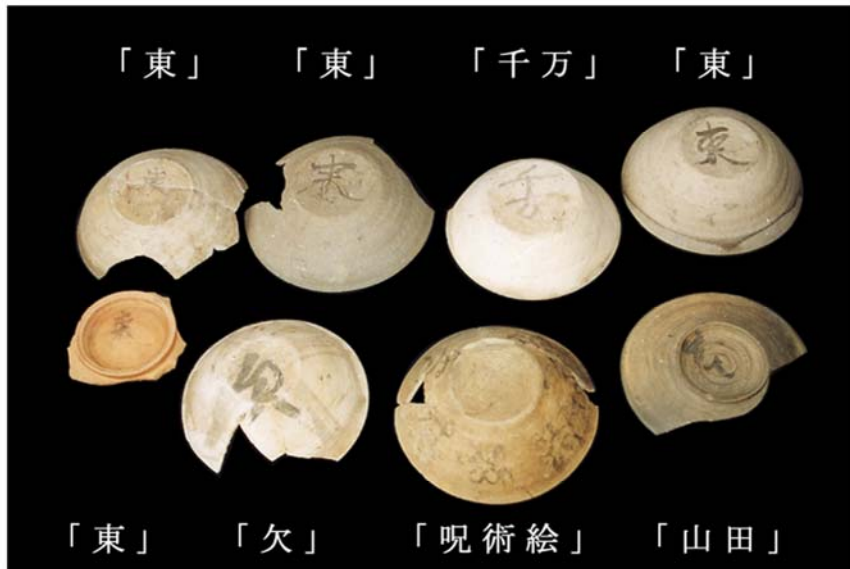


灯明皿実験

水野氏製作赤焼土器



古志田東遺跡出土兩黑土師器



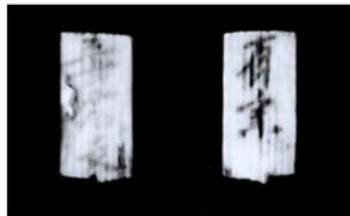
古志田東遺跡出土墨書土器

古志田東遺跡出土木製品 (1)

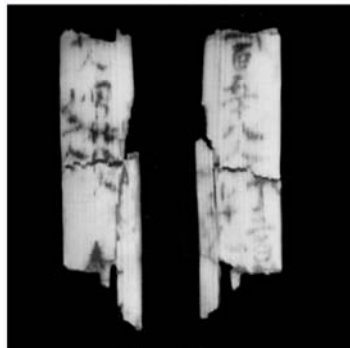


・木簡 1～61 (61点)

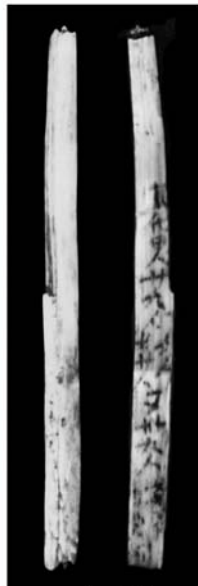
12の木製品▲=24.10×3.16×0.52 60の木製品▲=(6.43)×2.32×0.26



▲第1号木簡



▲第3号木簡



▲第2号木簡



▲第12号木簡

古志田東遺跡主要木簡「赤外線写真」

古志田東遺跡出土木製品 (2)



・横櫛 1,2(2点) ・物差し 3(1点) ・釘状木製品 4,5(2点) ・舞踏文具 6~9(4点) ・櫓扇 10~12(3点) ・鉄斧装着具 13(1点)  
 ・縦櫛 14(1点) ・独楽 15(1点) ・箸 15~34(20点) ・ステッキ状木製品 35~37(3点) ・刀子柄 48(1点) ・木製錘具 38~47(10点)  
 19の★製品▲=24 2x5.5x0.5? 24の★製品▲=15.8x0.01x0.67

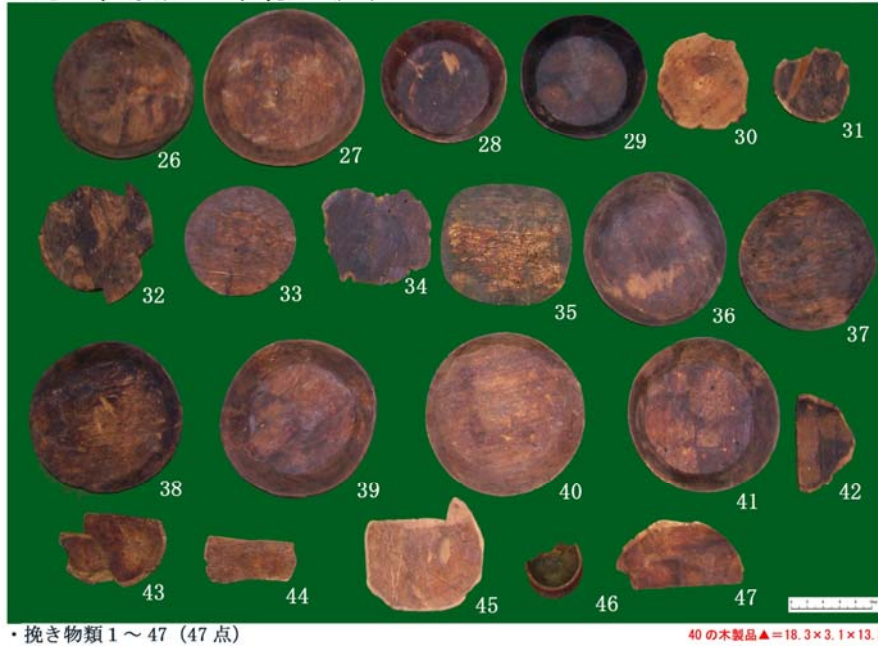


古志田東遺跡出土物指

古志田東遺跡出土木製品 (3)



古志田東遺跡出土木製品 (4)



古志田東遺跡出土木製品 (5)



・筒状木製品 1 (1点) ・箱状曲物 2~6 (5点) ・火種付木 7~24 (18点) ・曲物「A型」 1~26 (18点)

古志田東遺跡出土木製品 (6)



・曲物「B型」 1~14 (14点) ・曲物「C型」 15~18 (4点)

1の木製品▲=15, 18×0, 76

古志田東遺跡出土木製品 (7)



・曲物「C型」1～6 (6点) ・曲物「D型」7～11 (5点)

1の木製品▲=19.18×0.92

古志田東遺跡出土木製品 (8)



・曲物「D型」1～3 (3点) ・曲物「E型」4 (1点) ・楕円形曲物5 (1点) ・曲物棒「A型」7～13 (7点) 同「B型」6 (1点)  
6の木製品▲=25.8×4.8

古志田東遺跡出土木製品 (9)



・鏡 1, 2 (2点) ・鋏 3~7 (5点) ・木槌 8 (1点)

4の木製品▲=49.3×14.2×7.85  
8の木製品▲=33.6×8.62×7.34

古志田東遺跡出土木製品 (10)



・机脚部 1~9 (9点) ・木製楔 10, 11 (2点)

10の木製品▲=21.1×5.7×3.8

古志田東遺跡出土木製品 (11)



・板状木製品「A型」1～7 (7点) 「B型」8～25 (18点)

1の木製品▲=71.2×1.77×0.64

古志田東遺跡出土木製品 (12)



・板状木製品「C型」1～7 (7点) 「D型」8, 9 (2点) 「E型」10 (1点)

・木製部材「A型」11 (1点) 「B型」12 (1点) 「C型」13, 14 (2点) 「D型」15, 16 (2点)

14の木製品▲=92.6×7.95×2.6

古志田東遺跡出土木製品 (13)



・棒状木製品「A型」1～5 (5点)・「B型」7 (1点)・「C型」6 (1点)・「D型」8～12 (5点)・「E型」13～36 (24点)  
 1の木製品▲=93.9×2.5

古志田東遺跡出土木製品 (14)



・高足駄 1, 2 (2点)・木製未成品 3, 4 (2点)・ひょうたん「杓」・ひょうたん部分「一括」5, 6a～6i (2点)  
 5の木製品▲=80.2×15.5

古志田東遺跡出土木製品 (15)



・丸木弓「A型」1, 3, 4 (3点) ・丸木弓「B型」2, 5 (2点)

1の木製品▲=128.2×3.15×3.0

古志田東遺跡出土木製品 (16)



・修羅「A型」1 (1点) <他に1点> ・修羅「B型」2~4 (3点) <他に4点>

1の木製品▲=278.5×19.5×8.5

古志田東遺跡出土木製品 (17)



・木製大皿 1 (1点)

1の木製品▲=(50.5)×3.3×44.5

古志田東遺跡出土木製品 (18)



・柱根「A型」1 (1点)・「B型」2 (1点)

1の柱根▲=直径 35.0



整備された古志田東遺跡



## 大浦B遺跡

漆紙文書が出土した官衙遺跡

## 大浦B遺跡

### ◎遺跡の立地

大浦遺跡は掘立川と最上川によって形成された河岸段丘上に存在するもので、A～D遺跡の4遺跡群で構成する。

### ◎遺跡の範囲

大浦遺跡群は南北250m、東西830mで北側を旧河川(掘立川)で隔てられた自然堤防上に立地している。官衙域は東西550m、南北180mの約99,000㎡と推測。

### ◎遺跡の経緯

8世紀中葉に集落跡として成立。8世紀後半頃、最上川に掘立川と羽黒川が合流する大浦に官衙を移設。従来の集落は強制的に移転か。集落の中心に政庁を設け、Ⅱ期に亘って存在していたが、9世紀に入ると置賜郡の西側開拓を進めることを目的に郡衙の移設が決定。

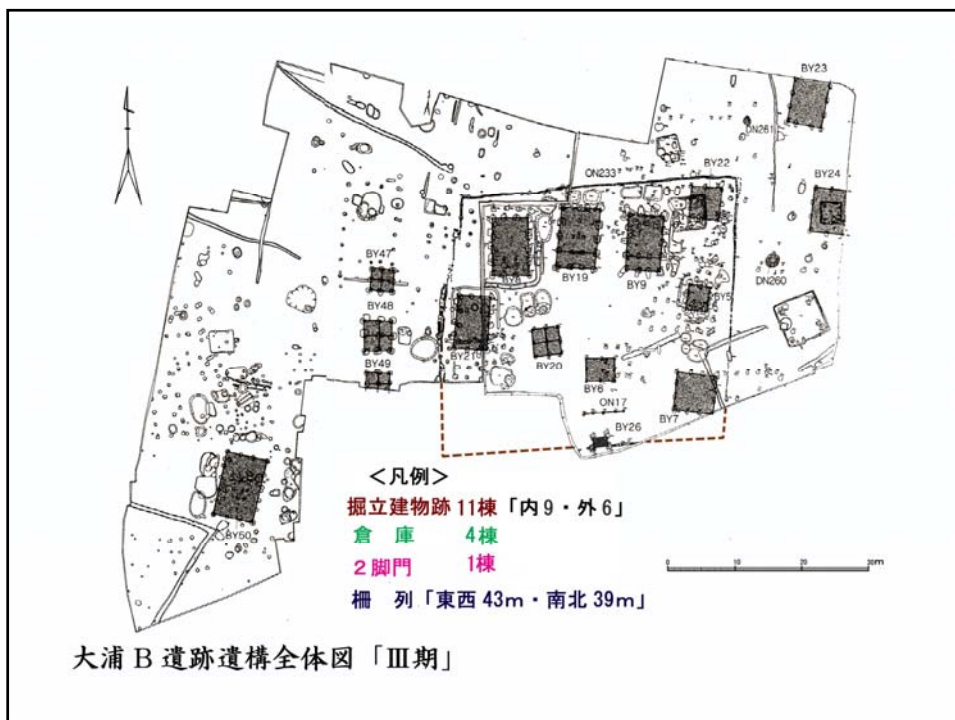
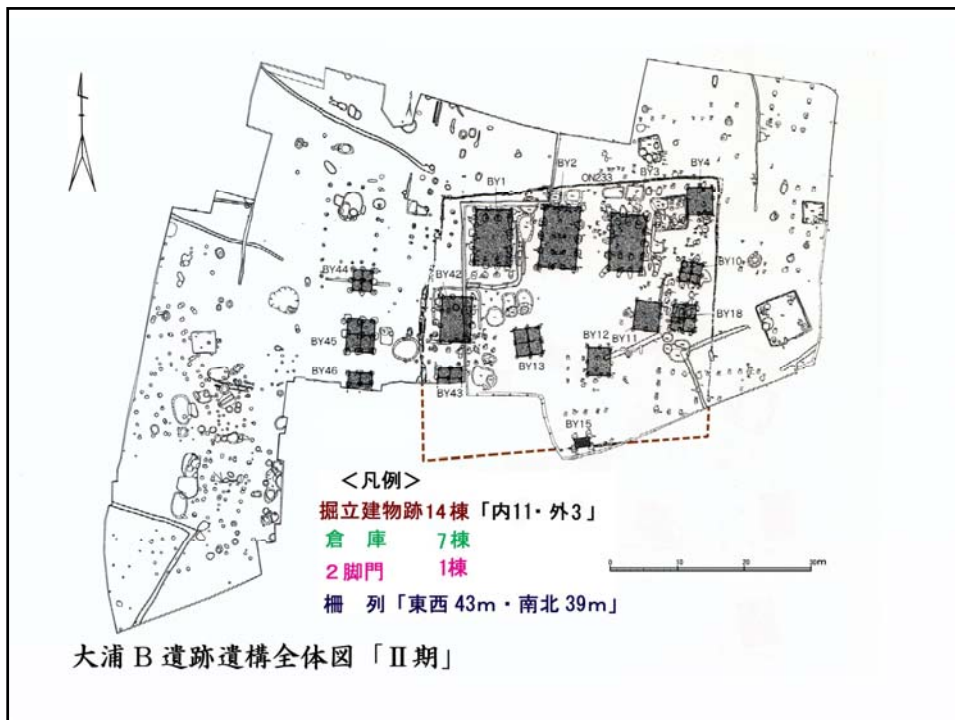




大浦 B 遺跡主要遺構全体「空中写真」



大浦 B 遺跡遺構全体図「I 期」



## 大浦遺跡群の変容

### ○Ⅰ期「8世紀中葉(第2四半期)」

竪穴住居を中心とした中規模集落(20棟位か)。

### ○Ⅱ期「8世紀後半(第3四半期)」

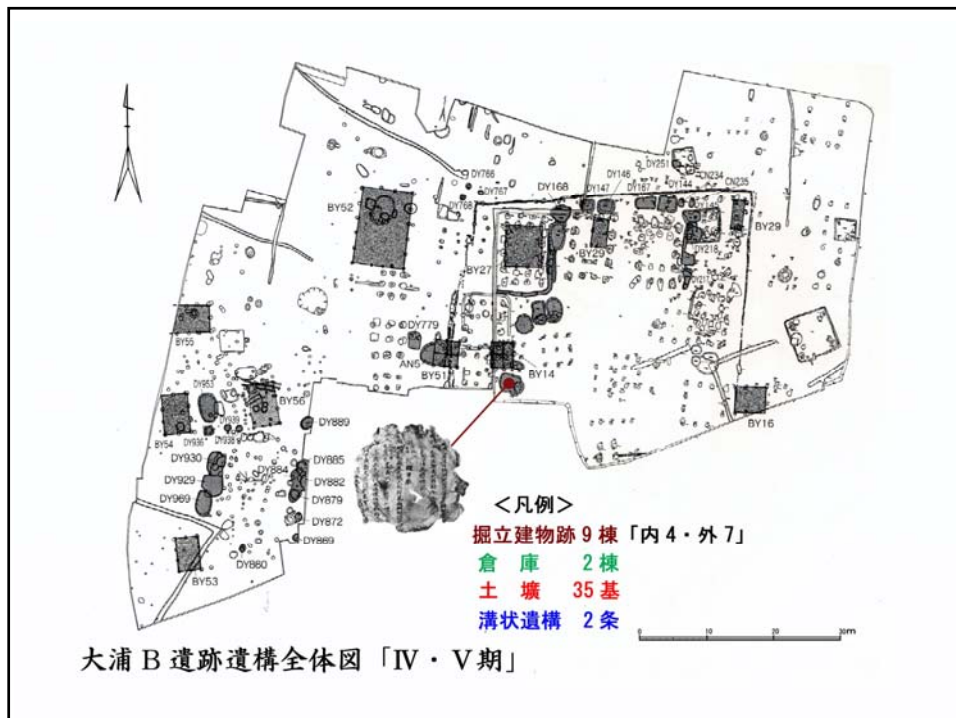
集落を強制移転、置賜郡衙を造営。大浦B遺跡に政庁、東端の大浦C遺跡に官人「郡司」居住地を置く。この頃、官衙船着場の笹原遺跡、大神窯跡・壇山窯跡群が開窯。官衙の西側あたりに寺院(街道西下)を建立か。

### ○Ⅲ期「8世紀末(第4四半期)」

Ⅲ期の建物群が完成。この頃、上浅川に倉庫群が設置される。大神窯跡群の最盛期

### ○Ⅳ・Ⅴ期「9世紀前半(第Ⅰ四半期)」

官衙の移転に伴って、建物群を解体。作業小屋を設置、屋敷周辺に穴「土壌」や溝を掘り、不要なものを焼却処分する。この時点で、漆紙文書が土壌に廃棄された。

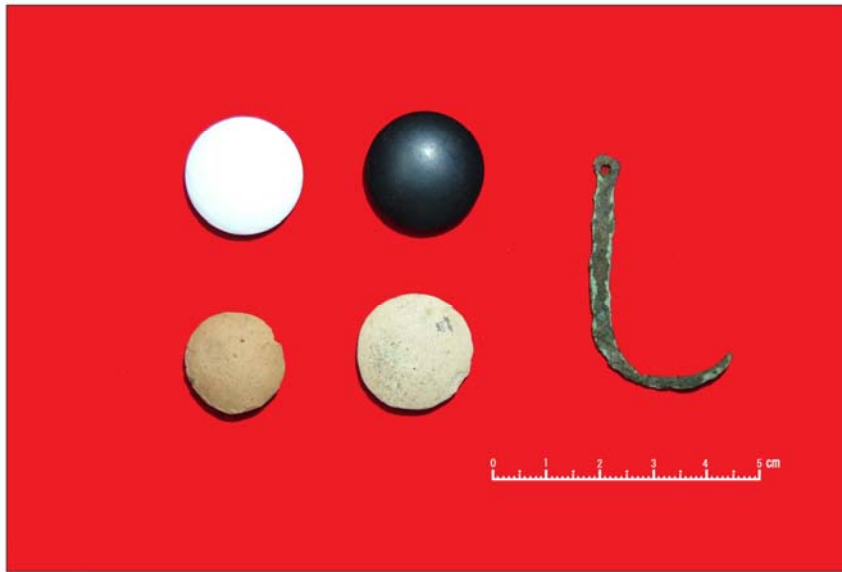




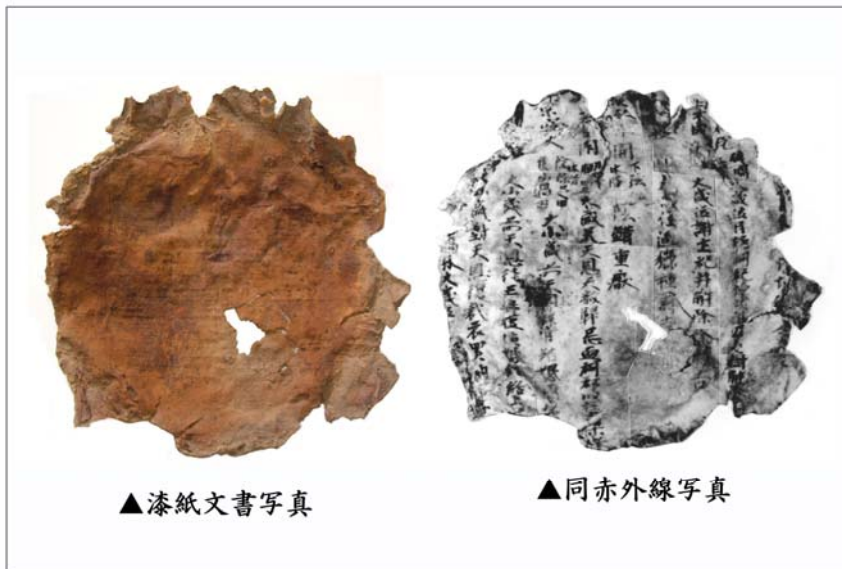
大浦 B 遺跡出土遺物



大浦 B 遺跡出土二面碗



大浦 B 遺跡出土碁石状土製品・釣針



▲漆紙文書写真

▲同赤外線写真

大浦 B 遺跡出土漆紙文書



具注曆復元「部分」

**漆紙文書復元**

十八日己未火破 驚鳥 大歳位

十九日庚申木危 辟臨 大歳位月徳祠祀壤垣破屋伐樹解除□

廿日辛酉木成 沐浴 大歳位謝土祀井解除除服吉

廿一日壬戌水収 沐浴 大歳位魚獵種蒔吉

廿二日癸亥水開 下弦 陰節重敷

廿三日甲子金閉 水澤 大小歳前天恩天赦婦忌血祠祀□□上梁

廿四日乙丑金建 沐浴 大小歳前

廿五日景寅火除 候足甲 大小歳前天恩拜官結婚

廿六日丁卯火滿 候小過内 大小歳前天恩往亡□□経絡

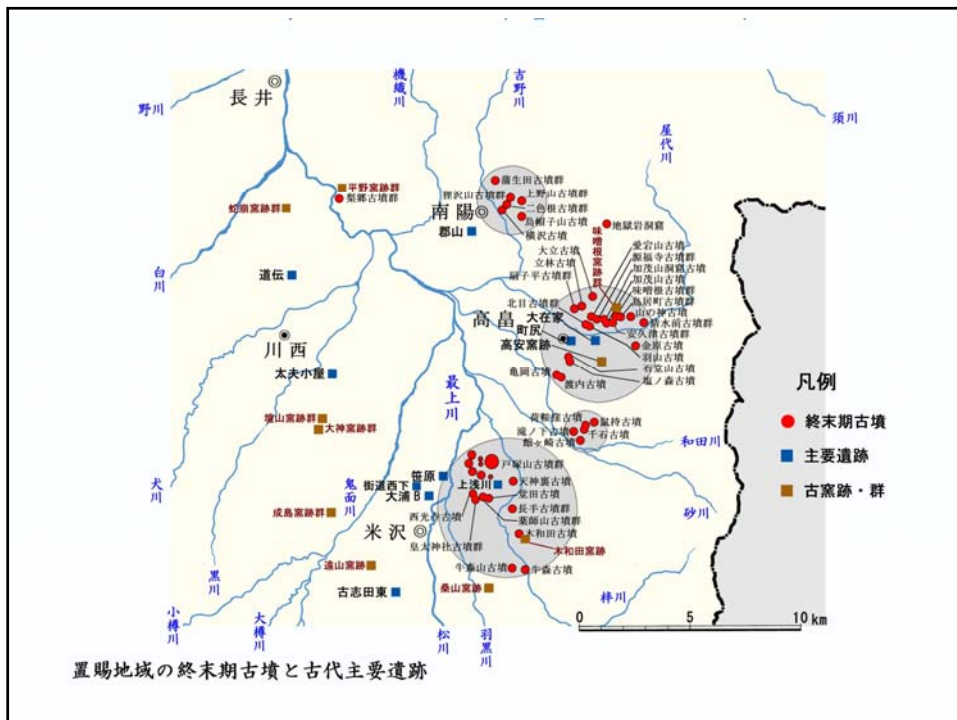
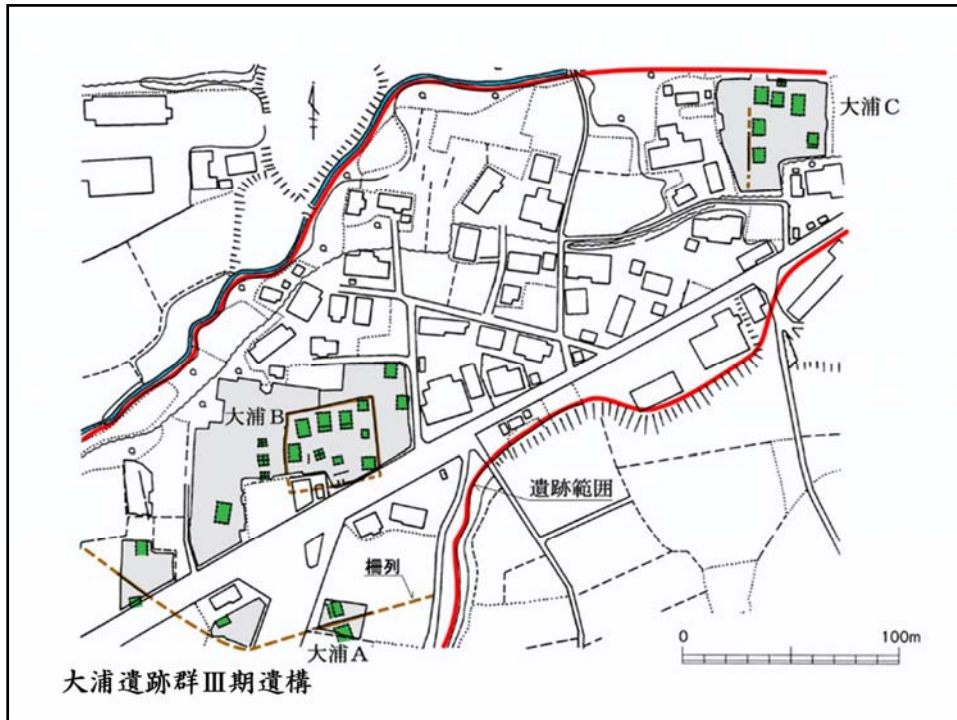
廿七日戊辰木平 大小歳前小歳対天恩復裁衣買納

廿八日己巳木定 立春正月節 候小過外大歳位□□

東風解凍

漆紙文書実測図

大浦B遺跡の具注曆



## 新天地への決断

現在の川西町方面に置賜郡衙の移設が決定すると、大浦郡司らは移転準備をするが、移転を拒む官人の一部(有宗)らは米沢南部に新たな開拓地を築く。

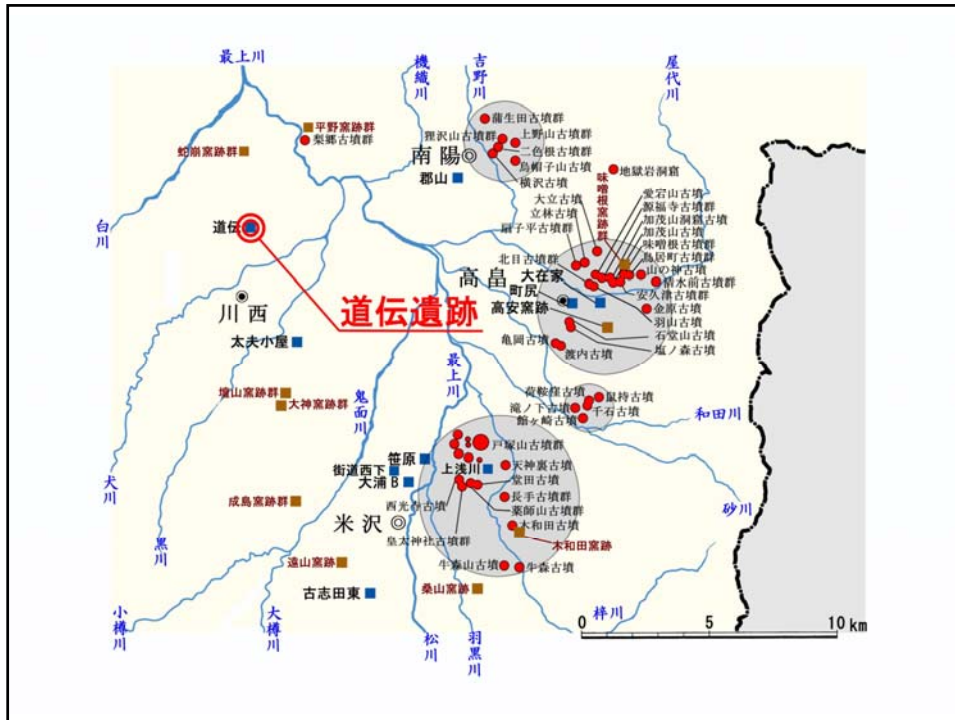
その新天地が古志田東遺跡で、官衙の移設先が川西町道伝遺跡と推測している。

有宗らは、未開拓の湿地帯を開拓し、大規模な農業経営を行っていた。河川を利用した広域な水運をはじめ、高度な木工技術を屋敷工房で行い。近隣村とも共存を図りながら祀や儀式を行っていたことも多量に出土する呪術墨書土器や木製品等から読み取れる。

律令体制が衰退し行く中で、律令国家を維持しようとする勢力に抵抗した豪族たちの攻防が垣間見ることができる貴重な遺跡が古志田東の豪族屋敷である。



道伝遺跡の柱穴群「小規模建物」

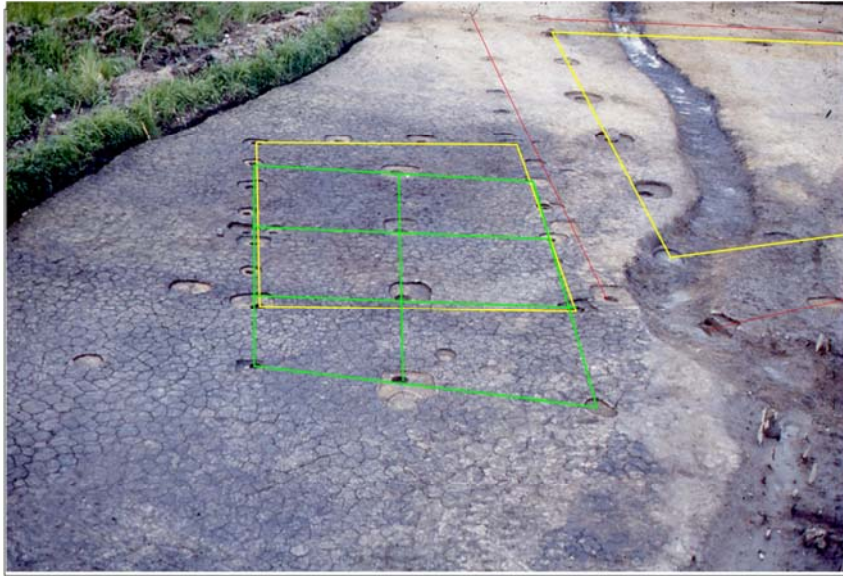


### 道伝遺跡「置賜最後の官衙跡」

昭和54年から昭和57年まで調査された遺跡。遺跡からは、二面庇を有する**3間×7間**の母屋と推測される大型の建物跡を含め、22棟の建物跡と大溝(運河)や井戸跡などが検出されている。遺物も木簡や絵馬を含む木製品の他に墨書土器や硯などの土器類も出土。

第1号木簡には「**寛平八年計收官物口 去七年料 本倉實五百冊〔斛カ〕□□〔前カ〕□官物計收如件□□**」とあり、前年料「寛平七年(895)」で徴収した官物「米」を国司及び郡司立会いで本倉(米倉)保管の官物「米」五百冊斛を確認した内容。置賜郡7郷「**置賜・広瀬・屋代・赤井・宮城・長井・(余戸)**」を八世紀の記録(輸租張)と比較すると一年間の中郡納入額に相当することで、この地が郡衙として機能していたことを示している。

道伝遺跡が郡衙として機能するのは9世紀初頭から前半に相当し、大浦B遺跡の移転時期、古志田東遺跡の出現時期とも符号する。



川西町道伝遺跡の建物群



道伝遺跡の建物跡「三間×四間」



道伝遺跡出土の墨書土器「目」





笹原遺跡全景



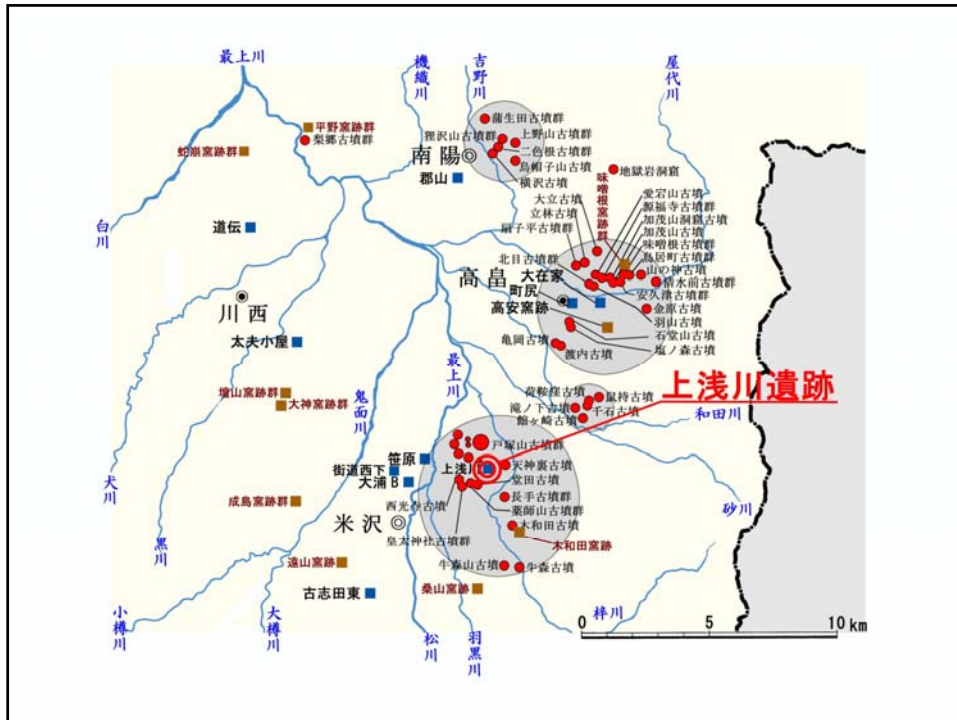
笹原遺跡出土円面鏡



笹原遺跡出土木簡



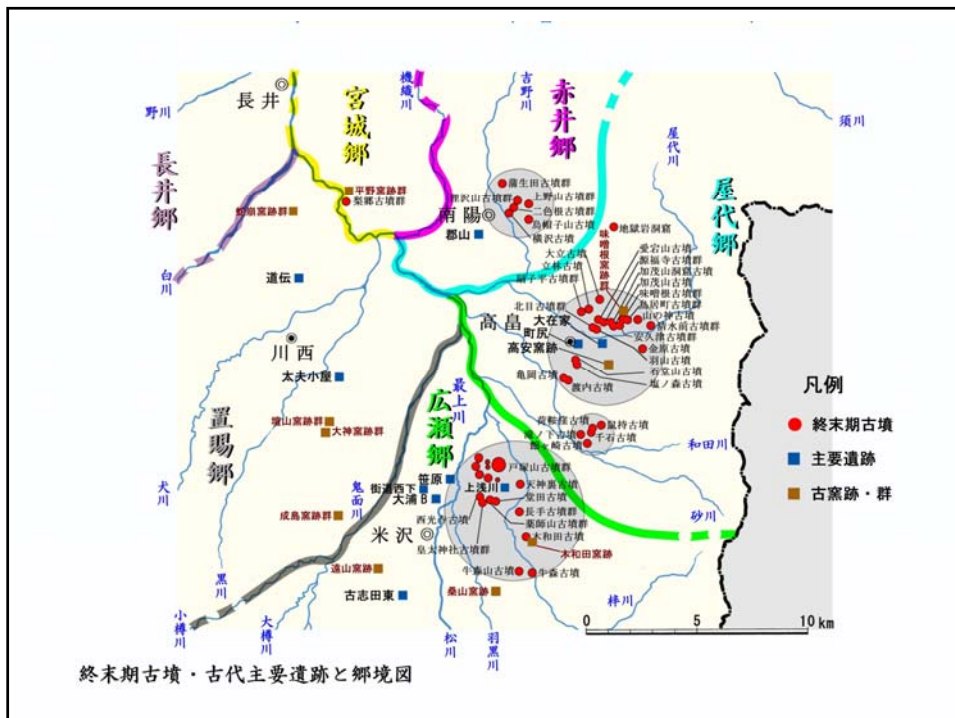
笹原遺跡出土の炭化米



米沢市上浅川遺跡の倉庫群

## ◎ 要 約

- 古志田東遺跡は、置賜郡衙「大浦B」の第Ⅳ期に独立した豪族屋敷。
- 屋敷では運河を利用した広域な流通と大規模な農業経営を行っていた。
- 郡衙としての存在は、税収の向上を前提に地域開発の前進基地としての役割があった。出羽国の誕生とともに河川の安定と住民との調和を図りながら置賜郡衙は東から西へと移設を行い地域整備「平定」して行く。郡衙は、陸奥国時代の屋代郷「Ⅰ期」(高畠町大在家遺跡)から出羽国に属すると赤井郷「Ⅱ期」(南陽市郡山遺跡)→広瀬郷「Ⅲ期」(米沢市大浦B遺跡)→置賜郷「Ⅳ期」(川西町道伝)の少なくとも四時期の変遷が想定される。



御清聴感謝申し上げます



2003